

弥生時代の葬送儀礼について

倉吉市教育委員会事務局文化財課 橋本有正

1 葬送儀礼とは

死者を埋葬する時に、死後の冥福を祈り行われる祭祀行為

- ・鉄製品や玉類などの副葬品を供える
- ・飲み物や食べ物を供える
- ・土器を置く→「土器配置」

2 土器配置とは

- ・墓の特定の場所に土器を置くこと
- ・弥生時代（約 2300～1800 年前）の中頃以降に行われた

(1) 棺上に割った土器を置く行為（墓壇内破碎土器配置）

- ・木棺の蓋をした後に、割った土器を棺の周囲や蓋の上に置く行為。
→現代では、葬式の時に行われる茶碗を割る行為に近い。
- ・甕、壺、高坏などが使用されており、甕の外面にススが顕著に付着している。
→調理を伴った煮炊きを行っていたと考えられる。
- ・近畿北部地域のみで行われている。

(2) 墓上に土器を置く行為（主体部上土器配置）

- ・墓の埋め戻し後、墓上に甕、壺、高坏などを置く行為。
- ・近畿北部地域や吉備・山陰地域で行われている。

3 近畿北部地域の事例

(1) 三坂神社墳墓群（京都府京丹後市）

- ・6基の墓から木棺35基、土器棺4基を検出。
- ・3号墓10号埋葬施設から鉄刀や多量の玉類が出土。
- ・39基のうち木棺34基で棺上に割った土器を置く行為を確認。
- ・割られる土器は、甕、壺、高坏で、各埋葬施設に2～4点の出土。

(2) 大風呂南墳墓群（京都府与謝野町）

- ・2基の墓から木棺10基を検出。
- ・1号墓2号埋葬施設からガラス製の銅（腕輪）が出土。
- ・10基のうち4基で棺上に割った土器を置く行為、
2基で墓上に土器を置く行為を確認。
- ・割られる土器は、甕、壺で、各埋葬施設に1点ずつ出土。
- ・置かれる土器は、甕、壺、高坏で、2号墓の埋葬施設では10点以上出土。

(3) 東山墳墓群（兵庫県豊岡市）

- ・4基の墓から木棺39基を検出。
- ・39基のうち36基で棺上に割った土器を置く行為、
7基で墓上に土器を置く行為を確認。
- ・割られる土器は、甕、壺、高坏で、各埋葬施設に2～3点出土。
- ・置かれる土器は、甕、壺、高坏で、1号墓の埋葬施設では4点出土。

土器を割る行為は多くの埋葬施設で行われており、配置される土器の量、副葬品の有無と関連しない。

4 山陰地域の事例

(1) 西谷墳墓群（島根県出雲市）

- ・平坦な高まりと四隅が飛び出ている墓。（四隅突出型墳丘墓）
- ・2、3、4、9号墓は、全国で最大級の四隅突出型墳丘墓。
- ・3号墓からガラス勾玉や鉄剣が出土。
- ・3号墓の墓上に多量の甕、高坏を置く。（主体部上土器配置）

(2) 宮山IV号墓（島根県安来市）

- ・仲仙寺古墳群宮山支群に位置し、周辺に古墳が5基。
- ・鉄剣と水銀朱が出土。
- ・墓上に多量の甕、高坏を置く。（主体部上土器配置）

(3) 阿弥大寺墳丘墓（倉吉市下福田）

- ・国府川の河岸段丘上の緩い傾斜地に位置。
- ・3基の四隅突出型墳丘墓。

- ・ 1号墓墳丘頂部で埋葬施設を2基確認。
- ・ 墳丘周辺で甕、壺、高坏、器台が出土。

まとめ

- ・ 近畿北部地域では、2種類の土器配置が見られる。
- ・ 棺上に割った土器を置く行為は、近畿北部地域以外では今のところ見られない。
- ・ 山陰地域では、墓上に土器を多量に置いている。
→土器配置に地域の独自性がみられる。
- ・ 他地域からの影響について

参考文献

- ・ 大庭重信 1996 「弥生時代の葬送儀礼と土器」『待兼山論叢』第26号史学篇 大阪大学文学会
- ・ 瀬戸谷皓ほか 1992 「上鉢山・東山墳墓群」『豊岡市文化財調査報告書』第26集 豊岡市教育委員会
- ・ 肥後弘幸 1994a 「墓壇内破碎土器供献(上)－近畿北部弥生墳墓土器供献の一樣相－」『みずほ』第12号 大和弥生文化の会
- ・ 肥後弘幸 1994b 「墓壇内破碎土器供献(下)－近畿北部弥生墳墓土器供献の一樣相－」『みずほ』第13号 大和弥生文化の会
- ・ 古屋紀之 2002 「古墳出現前後の葬送祭祀－土器・埴輪配置から把握される葬送祭祀の系譜整理」『日本考古学』第14号 日本考古学会
- ・ 村田裕介 2015 「墓壇内破碎土器供献における地域差」『弥生研究の交差点－池田保信さん還暦記念－』みずほ別冊2 大和弥生文化の会
- ・ 岩滝町教育委員会 2000 『大風呂呂南墳墓群－岩滝町文化財調査報告－』第15集 岩滝町教育委員会
- ・ 大宮町教育委員会 1998 『三坂神社墳墓群・三坂神社裏古墳群・有明古墳群・有明横穴墓〔北部マスターズビレッジ整備事業関連遺跡発掘調査報告書〕－京都府大宮町文化財調査報告書－』第14集 大宮町教育委員会